

「産産学学」新たな業界コラボレーション

# Academic-Industrial Collaboration Project 2014

8th FORM PRESENTATION

「ウールの進化・3」

Urban Military

主 催：繊維ファッション産学協議会

特別協賛：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

協 賛：UAゼンセン

協 力：日本毛織株式会社

## 【事業目的】

“テキスタイル・クリエイションへの関心と開発への啓発促進”を目的とした産学協働の人材育成事業「FORM PRESENTATION」も今年で8回目を迎えました。今年は昨年を引き続き日本を代表する企業“ニッケ”の協力のもと、素材テーマを「ウールの進化・3」、そしてファッションテーマを「Urban Military」と題し、ウールの新しい価値創造を追及しました。

## 【8<sup>th</sup> FORM PRESENTATION】 ～作品が完成するまで～

### 「ウール大学」開催

#### ■8<sup>th</sup> FORM PRESENTATION ウール大学 開催報告

素材知識を習得するための「ウール大学」を、大阪&東京で開催しました。ファッションを学ぶ専門学校生&大学の学生や、若手デザイナー、アパレル・小売りのMDやデザイナー、生産管理者など合わせて350名が参加し、ウールの基礎知識や素材の魅力を講義と映像で学びました。

大阪：5月28日（水）13:30~16:45 会場：大織健保会館

東京：6月5日（木）13:30~16:45 会場：長井記念ホール

講師：

ニッケテキスタイル(株) 主席 企画担当 河野 典晃 氏

日本毛織(株) 衣料繊維事業本部ニット製品チーム 主席 濱崎 聡 氏



講座は2部構成で、「ウールの基礎知識」では、河野 典晃 氏が、原料である獣毛の原料について、その種類からその様々な特性を活かした毛織物ができるまでが語られました。第2部では、「ウール素材の多様な広がり」をテーマに、日本毛織(株) 濱崎 聡氏が、ウールコレクションの多様化と日本発の毛織物の世界展開について、長年にわた

る販促活動の成果と今後の展望について語られました。会場内には、実際に商品化したラグジュアリーブランドの製品も多数展示されました。

学生は「8th FORM PRESENTATION」のための必修の講義を受講後、会場に準備された、“ニッケ”提供の、今回のテーマ素材の見本から感性に合った素材を自由にピックアップしました。その後この素材を活かした新規性のあるフォルムのアイデアを具現化するポートフォリオの提案に取り組みました。



### “8th FORM PRESENTATION”の応募要項

ファッションテーマは、Urban Military(アーバンミリタリー)。ウールのスタンダードな魅力と、JFW Textile View のテーマ「アートフルコラージュ」のカラーを連動させ、ミリタリーやワーキングウエアからインスパイアされたアイデアをもとに、“マスキュリン+フェミニン”のテイストをミックスしたニューフォルムの表現がテーマ。



## “FORM PRESENTION” 審査会で9グループを選出

### ■ 審査会

「ウール大学」で学んだ知識と素材サンプルをもとに、13校/42グループからポートフォリオの応募がありました。「Urban Military」をファッションテーマに7月1日に審査を行った結果、今回の9校/9グループが選出されました。

審査に通過したグループは、尾州産地研修会会(日本毛織ほか)に参加した後、専門家のアドバイスを受けながら、ポートフォリオの具現化に取り組み、独自のテキスタイルを作成し、完成した作品は11月5日から6日に開催されるJFW JAPAN CRIAYION 2015の会場で展示発表されました。

□ 審査内容 (以下4項目の評価の合計点で上位を選出)

- ・テキスタイルと作品の適合性
- ・作品表現の独創性
- ・作品のリピート性
- ・作品の完成度

<審査通過校>

学校名	グループ名
上田安子服飾専門学校	lampnew
エスモードジャパン東京校	strong delicate
大阪モード学園	Lyrics
東京モード学園	CAMOUFLAGE SILHOUETTE
ドレスメーカー学院	massas
文化学園大学	oui
文化ファッション大学院大学	Malin
文化服装学院	For 2
横浜 f カレッジ	avant de noir

50 音順



今回は特に“テーマの理解”  
並びに“素材とデザインの整  
合性”を重視し、審査が行わ  
れました。

## 産地研修会 “尾州産地を訪問”

選出9グループのメンバーは、7月23日に産地研修として尾州産地を訪問しました。尾州一帯は、伝統ある織物産地です。伝統の技術を活かし、時代と共に絹～麻～綿とさまざまな天然繊維織物の開発に着手し、洋服の需要の高まりとともに、国内でもいち早く洋服地の毛織物の開発に取り組みました。現在は、世界でも有数のウールテキスタイルの産地として知られ、ラグジュアリーブランドのコレクションにも多数採用されています。

この産地研修会は、学生が産地の加工場を訪問し、生産の現場に触れる体験をすることで、素材に関する見識を高めることが目的です。今回はウールの原料を取り扱う尾州産地の企業を訪問しました。中伝毛織株式会社では、最新のレピア織機を駆使した、様々な意匠糸の複合織物の製作や、丸編み機のニット工場を見学しました。紡績から織～染色整理までの一貫生産の設備を有する日本毛織株式会社では、工場見学のほかに、大正末期に生産された軍服生地など、他では見ることのできない貴重な資料を保管するアーカイブ資料館を見学しました。

この後、学生9グループは11月のJFWジャパン・クリエーションの展示発表に向けて、ニッケの生地を使用した作品製作に取り組みました。

### 尾州産地研修協力-訪問先

- ニッケ（日本毛織株式会社） 紡績&織布&染色&整理加工工場見学  
<http://www.nikke.co.jp>
- 株式会社中伝毛織 織布&編布工場見学  
<http://homepage3.nifty.com/nakaden/1>
- 岐阜県毛織会館 マテリアルセンター テキスタイル資料館見学  
<http://www.fdc138.com/matelial/matelial.pdf>



**「JFWジャパン・クリエーション2015」展示発表（11月5日～6日）  
会場：東京国際フォーラム B1展示ホール ギャラリー**

完成した作品は、JFW JAPAN CREATION 2015 展示ホール入口に、グループごとの9ブースを設け、展示発表を行いました。規定のスペースの中、学生たちはそれぞれ魅力ある演出でブースを設営しました。同展示会には、2日間で約20,000名が来場。会期中は自作品を熱心にプロモーションしました。

前日の準備、展示装飾に取り組む学生（↓）



展示会開催（↓）



今回の作品制作のコア素材  
『ヴィンテージ・ウール』  
《素材：ニッケ》

- ① ヴィンテージ・サージ (ウール100%)
- ② スクール・サージ (ウール50% ポリエステル50%)
- ③ メルトン (ウール100%)

## 「JFWジャパン・クリエーション2015」展示発表作品の審査

会期中は学生自らブースに立ち、作品の説明を行いました。学生にとっては、プロの業界人からの厳しくも暖かい意見を聞く貴重な機会となりました。また、来場バイヤー75名(デザイナー、MD、小売バイヤー)に作品評価を依頼し、評価点の集計による「最優秀賞」と「優秀賞」の選出を行いました。

### ■丹治 龍子 (チーフコーディネーターの声)

Part.3となる「ウール」をテーマに、昨年引き続きニッケとのコラボレーションを行ないました。特に今回は世界の様々なラグジュアリーブランドも使用している“ヴィンテージ・ウール”に焦点をあて、代表的な“メルトン、ヴィンテージ・サージ、スクール・サージ”の3素材を取り上げました。学生にとっては、普段使用することのない高級素材を、テーマにそってどのようなフォルムに落とし込んで行くかが今回の大きな課題でした。今、アパレルでは海外生産が増加し、ほとんどのデザイナーが産地とのつながりが薄れ、独自の素材企画を行なう機会もなくなりました。そのため素材を知らないデザイナーが多くなったとの声が多く聞かれるようになりました。私たちは、未来のファッション業界を担う次世代のクリエイター育成が問われている今だからこそ、素材と触れ合い新しい創造力を開花するきっかけになる場として、この人材育成支援の「FORM PRESENTATION」を続けてきました。

特に、ファッション・ビジネスという視点から、このイベントには2つ大きな特徴があります。一つは、造形だけを追求するデザインから、アパレル・デザインの領域に焦点を当て、一般的なリアル・クローズではなく、素材とマッチングしたニューフォルム“リアル・クリエーション”を追求することです。もう一つは、展示場でのプロモーション。作品の前で学生達は来場された業界の方々に、テーマとコンセプトを説明しました。業界の方々と直接ふれあうことで現実的な意見を聞き臨場感を肌で感じることも、また総じて苦手とするコミュニケーション能力を高める良い機会ができたことが、一番の勉強だったのではと思います。テーマにそったアイデアを形にし作品を製作、展示とプレゼンテーションを行い評価を得る。このような一貫した体験の場が、フォルムプレゼンテーションです。

## ■ 審査講評と受賞グループの選出

今回のファッションテーマは「Urban Military」。ヴィンテージ・ウールの中から代表的な3素材「メルトン、ヴィンテージ・サージ、スクール・サージ」を選定。JFW-JC2015のトレンドテーマの一つ「Playful Collage」のカラーを連動させ、60年代のミリタリーやワーキングウエアからインスパイアされたアイデアをもとに、“マスキュリン×フェミニン”の要素をミックスしたニューフォルムの表現をベースに公募しました。選ばれた9グループは作品を制作し、JF-JCの会場で作品を発表。

審査は、現在活躍中のコレクション・デザイナーはじめ、小売店やアパレルのバイヤー75名の皆様に評価を依頼し、厳正な審査の結果「最優秀賞」「優秀賞」、並びに素材協力企業ニッケより“ニッケ賞”も同時に決定しました。

審査結果の全体講評としては、「全体にレベルも完成度も高くなっている」「マーケットにはないフレッシュなアイデアが素晴らしい」という好評価なコメントが多かった反面、「歴史の研究をしっかりと行いイメージソースの深堀をしてほしい」「全体に重い。クリエイションであっても軽くしかも独創的な作品を作って欲しい」「基礎の縫製力をつけてほしい」等の激励のコメントも寄せられました。

<展示作品>

学校名：上田安子服飾専門学校

グループ名：lampnew

植村 未咲（\*）

太田 留美

尾谷 弥生、

古味 佑々佳、

塩見友佳子

藤林 里佳

テーマ名：Fixed con Collapse



学校名：エスモードジャパン東京校

グループ名：strong delicate

佐藤 里咲（\*）

山本 茉依

勝 彩乃

吉永 依織

高橋 彩恵

テーマ名：ストロングデリケート



学校名：大阪モード学園

グループ名：Lyrics

三好 佑樹（\*）

長井 隼斗

前田 葵

テーマ名：リリックス



学校名：東京モード学園

グループ名：CAMOUFLAGE SILHOUETTE

永渕 光（\*）

宗軒(ウシオンシエン)

笹倉 麻衣

高卓エイ

テーマ名：カモフラージュシルエット

「平面から立体へ」



学校名：ドレスメーカー学院

グループ名：massas

村木 栞（\*）

伊藤 真央

井上 愛理

荻原 しのぶ

紺矢 有紗

常見 彩那

テーマ名：mist



学校名：文化学園大学

グループ名：oui

薄井 あい（\*）

今村 未来

大用 和花奈

テーマ名：戦場<sup>シンジユク</sup>=都会



学校名：文化ファッション大学院大学

グループ名：Malin

Ma Lin (\*)

テーマ名：Citi Camo



学校名：文化服装学院

グループ名：For 2

馬場 進之介 (\*)

浅井 隆靖、

佐野 凜由輔

本吉 真人

テーマ名：City became ruins



学校名：横浜 f カレッジ

グループ名：avant de noir

坂口 香織 (\*)

杉山 優奈

伊川 翔子

相馬 香菜美

海田 五月

テーマ名：

マニッシュとミリタリーの融和



(\*) = グループ責任者

## ■ 「報告会」 成果報告と優秀者表彰

JFW-JC2015 で展示発表された“FORM PRESENTATION”に参加した学生グループの報告会が11月26日、東京・渋谷の文化ファッションインキュベーションで開かれました。9グループの学生、教員、協力企業、協賛団体関係者、マスコミ関係者などの50名が参加しました。

報告会では、コンセプトの立案から服地の選定、加工、作品制作にいたるプロセスを報告。「産地研修は貴重な体験であった。」「素晴らしい素材が使えたことに感謝しています」とのコメントが相次ぎました。



報告会の後、JFW-JCの会場に訪れた業界関係者による審査の発表が行われ、最優秀賞のドレスメーカー学院 massas (村木栞さん代表)、優秀賞のエスモードジャパン東京校 strong delicate(佐藤里咲さん代表)には賞状とトロフィー、ニック賞の文化服装学院 (馬場進之介さん代表) にはトロフィーが贈られました。



<最優秀賞>

ドレスメーカー学院



グループ名：massas

村木菜

伊藤真央、井上受理、萩原しのぶ、紺矢有紗、常見彩那

テーマ：「mist」

素材：

コア素材/ネイビーメルトン(ウール100%)+2素材

コンセプト：

「冬の寒い朝・曇りの日・まだ誰もいない・川の音だけが聞こえる」をイメージコンセプトに、メンズのイメージが強いミリタリーを、女性的なフォルムに落とし込むためのマテリアルを追求。

ネイビーカラーのメルトンに、ニードルパンチ、スモッキング、裂き編みの3種類のテクニックを入れたキュートな“アーバン・ミリタリー”。

<優秀賞>

エスモードジャパン東京校



グループ名： strong delicate

佐藤里咲、山本茉依、吉永衣織、勝綾乃、高橋彩恵

テーマ：「Strong Delicate」

コンセプト：

「複雑、そして繊細である身体で現代を強く生きる女性の内なる精神美」を表現。

アイデアの背景は、60年代のストリートファッション&オールドブリティッシュ・ミリタリーからインスパイアされたデザイン。現代を強く生きる女性の為に表現された、構築的なシルエットと機能的なフォルムのバランスが特徴的な“アーバン・ミリタリー”。

素材：

コア素材/ネイビーメルトン(ウール 100%)+5 素材

<ニッケ賞>

文化服装学院



グループ名： For 2

馬場進之介、浅井隆靖、佐野凜由輔、本吉真人

テーマ： City become ruins

コンセプト：

「人の文明が終わりを迎え、廃墟と化した都市を舞台に、生き残った女性が強く生きていくスタイル」を表現。60年代の時代背景とモッズ・ルックからヒントを得た現代の“アーバン・ミリタリー”。

素材：

コア素材/メルトン、スクールサージ (ウール 100%)+2 素材



(2014.11.5)

# PJTFW・JJC、日本素材の価値発信

田安、海外生産のコスト上昇、上質素材へのニーズから、注目が高まるメイド・イン・ジャパン。東京国際フォーラムで6日まで開かれる、繊維総合見本市のJFWジャパン・クリエイション（JFW・J.C）、テキスタイルビジネス商談会のプレミアム・テキスタイル・ジャパン（PTJ）では、国内有力素材メーカーの協業を一躍することができ、会期中2万人以上の来場を見込む。

JFW・J.Cは、テキスタイル508社、繊維関連・製品919社、海外から4社が出展する。関連プログラムも充実、セミナーは「これが日本のワザとクオリティ」エコを加味した機能素材のトレンド」など4本実施する。産学協同の人材育成プログラム「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ

デス・ベンツ・ファッションウィーク中に行われた、東京産ビッグスキンを使った若手デザイナー、学生によるショー「ビギンズベンチャー」を放映、3メソンの作品の展示もする。

PTJは、繊維産物（綿、麻、ウール、絹）26社、繊維維織物（化学繊維、シルク、機能素材）19社、染色・後加工、プリント、縫製・ニット、皮革15社、服飾資材、ニットの機業、バイロ社の構成。

(2014.11.7)

2014年(平成26年)11月7日 金曜日 素材・製造 (4)

# 国産支える提案めだつ

## 協業で訴求力

結合本市のJFWジャパン・クリエイション（JFW・J.C）とテキスタイルビジネス商談会のプレミアム・テキスタイル・ジャパン（PTJ）では、国産の魅力を支える提案が一つに集まった。

県産物デザイン上の提案、める動きが目立った。5天、綿で、商品ベースの訴求力を、熊毛織、ソートなど社で構成する。PTJでは、国産の魅力を支える提案が一つに集まった。

州産地の生産の協業で新しい素材表現が可能になる。熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ

1、定めた、今までは「メーカー」の発表が主で、機材の展示もあつた。熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ

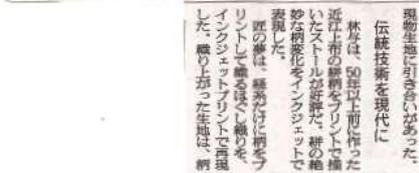
熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ

熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ

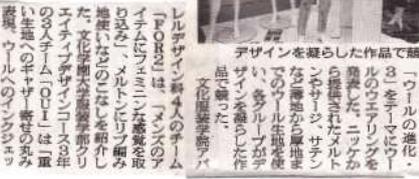
熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ



ラカムと協業で独自のインデックススペースを作ったビジュアルスタイル。PTJでは、国産の魅力を支える提案が一つに集まった。



熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ



熊毛織は、デザイナーの提案を企画した提案を紹介した。東京レザービッグスキンの「フォルム・プレゼンテーション」は、ウールを題材に各校がグループが出品、プレゼンテーションする。東京レザービッグスキンは、メルセ